

書：東野舜水
大阪樟蔭女子大学客員教授

第1ヴァイオリン
ジャック・ガンダール

第2ヴァイオリン
長谷川 彩

ヴィオラ
ジュリアン・ガバン

チェロ
オレリアン・サブレ

三つの芸術と三つの道が交差し美の楽園へと導く

「月冴ゆる」は詩的な輝きに満ちた俳句の世界を音楽と書を通じて新たな形で探求するひとときへの招待状

ベドリッシュ弦楽四重奏団 日本ツアー2025 特別公演

月冴ゆる ―季語季音― ～書・俳句・西洋音楽～

入場無料 2025年7月19日(土) 開場15:00 開演15:30 大阪樟蔭女子大学 円形ホール

お申込方法 右記の二次元コードを読み取り、申込サイトからお申込みください。
申込締切：2025年6月27日(金) ※先着100名様

公演内容 1.書・俳句・西洋音楽の融合
Ⅰ月 Ⅱ鐘 Ⅲ雪 Ⅳ花 Ⅴ旅
2.ベドリッシュ弦楽四重奏団の解説
3.大阪樟蔭女子大学学生・樟蔭高校生との交流
4.ベドリッシュ四重奏団による演奏

お問い合わせ先 学校法人樟蔭学園 企画調査部 経営企画課
TEL:06-7506-9346
<https://forms.gle/44spbjmUQIueQQsw8>



▲申込サイト



▲問い合わせフォーム

会場 大阪樟蔭女子大学 円形ホール
大阪府東大阪市菱屋西4-2-26
<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/access/>

主催 大阪樟蔭女子大学

協賛 有限責任会社PATAGADA、大阪教材社

後援 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、美音ジャパン



▲アクセス

1.書・俳句・西洋音楽の融合

前奏曲 ブリテン:弦楽四重奏曲第2番 第1楽章

I 月/LUNE

曲・ウェーベルン:6つのバガテル 第5番
書・月へ汲み上げる水のあかるさ(山頭火)

II 鐘/CLOCHES

曲・クルターグ:小オフィチウム(聖務日課)第1番、第2番
書・鐘 -cloche-

III 雪/NEIGE

曲・ドビュッシー:プレリュード集 第1集より 雪の上の足跡
編曲 ジャック・ガンダール
書・la neige tombe sur la neige Quiétude(santoka)

IV 花/FLEURS

曲・ラヴェル:弦楽四重奏曲 第1楽章(抜粋)
書・何の木の花とは知らず匂いかな(芭蕉)

V 旅/VOYAGE

曲・サティ:ジムノペディ 第1番 編曲 ジャック・ガンダール
書・旅 -voyage-

朗読 金 和子

- 2.ベドリッシュ弦楽四重奏団の解説
3.大阪樟蔭女子大学学生、樟蔭高校生徒との交流
4.ベドリッシュ四重奏団による演奏

《月冴ゆる-季語季音》

書・俳句・弦楽四重奏による舞台公演《月冴ゆる-季語季音》は、2013年4月19日フランスのパリ1区にある「ベルタン・ボワレ文化スペース」にて、当施設の協力を得て初演。書や俳句といった日本ならではの美に魅了されるフランス人は数多く、ベドリッシュ弦楽四重奏団のヴァイオリン奏者ジャック・ガンダールもその一人。彼は書と俳句に西洋音楽を融合させた舞台作品を創るというアイデアを長らく温め、2012年ベルタン・ボワレ文化スペースにて東野舜水と出会ったことから唯一無二の公演が実現。副題の「季語季音」とは、俳句の季語になぞらえた音楽における季の音(ね)をさす。

『ベドリッシュ弦楽四重奏団』

2002年結成のベドリッシュ弦楽四重奏団は、伝統的な弦楽四重奏曲の幅広いレパートリーを網羅する一方、ピアノ曲、交響曲、オペラ作品など、さまざまな楽曲を弦楽四重奏用に編曲し、新たな視点からクラシック音楽の魅力を届けている。
また、異なる芸術分野とのコラボレーションも積極的に行っている。朗読と音楽を融合させた「言葉と音の物語」、舞踏と組み合わせた「死と乙女」、俳句と日本書道を取り入れた「月冴ゆる」などがある。

JM France(子供のための音楽普及活動)を通して独自の音楽教育プログラム「バロックンロール」を提供。2023年にはクレティユ地方音楽院に招かれ室内楽のマスタークラスをするなど次世代の音楽家の育成にも貢献している。

グループは、これまでに、パリのシテ・ド・ラ・ミュージック、フランス国立図書館、アヴィニョン演劇祭、ブリュッセルのパレ・デ・ボザール等で演奏し、最近ではアルプス(フランス)で行われるフェスティヴァル・アルリイに出演。2020年チュービンゲン(ドイツ)のフィールクラング・フェスティヴァルに招聘され、ベートーヴェンとドビュッシーの弦楽四重奏を演奏して高評を得た。2023年6月には東京サントリーホールにも出演した。

2016年発売のCD「セレナード・アンテルンビュ」(Bion Records)はフランス国营ラジオ局のライブ出演を含めて広く紹介され、日本では「レコード芸術」誌において優秀録音盤に選出される。2ndアルバム「ミントレル」(2019年 Bion Records)もフランス国营ラジオで取り上げられ、日本でもリリースし、「音楽現代」誌において推薦盤に選出された。

音楽



ジャック・ガンダール (第1ヴァイオリン)
国立パリ高等音楽院において和声法・対位法・管弦楽法を修了し(和声法と対位法においてはブルミエ・プリ、管弦楽法では首席)、ブローニュ＝ビヤンクール地方音楽院においてヴァイオリン(ブルミエ・プリならびに上級課程)・室内楽・分析・合唱指揮法・管弦楽指揮法(すべてブルミエ・プリ)を修了。アックイ・テルム国際室内楽コンクール(イタリア)において第一位。フランス・ヴァランシエンヌにて開催のE-magiciens フェスティヴァルにおいて、SACEMの最優秀映画音楽賞受賞。フリーで活動。



長谷川 彩 (第2ヴァイオリン)
桐朋学園大学、ボストン大学卒業。在学中に参加した音楽祭では、札幌PMFでコンサートマスターを務めた他、小澤征爾音楽監督のタングルウッド音楽祭でHenri Kohn Memorial賞を受賞。フランス・トゥール管弦楽団メンバー。



ジュリアン・ガバン (ヴィオラ)
ブローニュ＝ビヤンクール地方音楽院においてヴィオラと室内楽を修了し(ブルミエ・プリ)、パリ地方音楽院でも学ぶ(上級課程)。クラシック音楽のみならず最新の音楽にも様々な親しみ、ジャック・ガンダールとともに当団の創設者。



オレリアン・サブレ (チェロ)
国立パリ高等音楽院(ブルミエ・プリ)、ボストン大学卒業。
2008年よりパリ国立歌劇場管弦楽団の第一首席チェリストを務める。

書



東野 舜水
大阪樟蔭女子大学客員教授 書家
「衝動と感情と思考」を制作理念とし、自由で大胆な造形美を追求する現代書作家。日本とフランスでの個展やグループ展などを中心に活躍する。
「彼の作品は科学であると同時に芸術でもあり筆と線は彼の思考と哲学に密接に反映している。その複雑に重なり合う墨を放った瞬間に、線は美しく色づき輝きと共に感情が交錯し彼そのものとなる。—Mr.Lyvann ,Galerie Lee in Paris—」と深い理解と高い評価を得ている。
フランス・パリでの個展 2013.4 Espace Culturel Bertin Poirée、2015.11、2016.10、2018.11、2024.11 La Galerie Lee

ベドリッシュ弦楽四重奏団 日本ツアー2025 公演日程

7月25日(金) 東京:稲城市アイプラザホール	福田美樹子(ソプラノ)&ベドリッシュ弦楽四重奏団	お問い合わせ
7月27日(日) 東京:サントリーホール・ブルーローズ	福田美樹子(ソプラノ)&ベドリッシュ弦楽四重奏団	美音ジャパン bion.japon@gmail.com
7月30日(水) 東京:杉並公会堂小ホール	ベドリッシュ弦楽四重奏団コンサート〜セレナード・アンテルンビュ〜	電話 050-6861-8680 (平日 9時〜16時)